

テレビ松本放送番組審議会 議事録

令和3年4月28日
テレビ松本本社会議室

出席者 (敬称略)

小宮山 淳会長・大池 剛委員・上條 まゆみ委員・柄澤 深委員代理
嵯峨 宏一委員・菅谷 千恵委員・藤澤 高穂委員・堀内 由理委員
横山 和佳枝委員・塩原 清彦委員代理・

テレビ松本ケーブルビジョン 佐藤 浩市代表取締役社長

事務局

テレビ松本ケーブルビジョン 制作部副部長 浅輪英典

1. 開会あいさつ

佐藤：本日は大変お忙しい中、またコロナの関係で外出が難しい中を令和3年度のテレビ松本の番組審議会にご出席いただいたことに心から御礼申し上げます。ありがとうございました。今回は、昨年今年と中止していた関係もあり、また各団体の過渡期ということもございまして、メンバーの一部を変更するということになりました。新しく5名の方にご就任いただいています。特に山形村と朝日村については、私どもも充実させたいということで、塩尻支社に3人の番組担当を置きまして、定期的取材できるよう努力しています。今回皆さんにご報告申し上げられるのは、非常に多くの生中継をさせていただいています。特に、松本市のご高配をいただきまして、今まででは考えられないような、松本・塩尻の市長の会見については全部生中継しています。また議会の関係についても、大変ご配慮いただいております。今まで市民が知らない議会というものが生の映像で出てきているということで、これからは議会と市民との掛橋にケーブルテレビがなればと思ってやっています。また先日、スポーツの殿堂であります、塩尻の新しい体育館が出来てきて、これもぶっ通して放送させていただきました。今までやったことがないですが、ようやくケーブルテレビも皆さんに認知していただけたと思います。特に、今、議会関係とスポーツを通じた生中継、もう一つ取り組もうとしているのは、学校教育の中で、コロナ騒ぎの中で、これからどういう生活をしていくのがいいのいいのか、松本塩尻の教育関係者にご相談しているということです。これから、朝日村と山形村、昨

年の秋から筑北村に進出させていただいた関係で、3つの村という大きなエリアを抱えています。こちらの方の番組もこれからちよくちよく作っていくつもりです。限定的に村内で放送する場合と、全体で放送する場合と2つのケースを分けて考えています。ようやく私どもの念願でありました議会というものにつきました。ケーブルテレビを利用いただくということは、新体制の市長さん達のご理解をいただけたということで、これからはもしかしたら市民生活今まで見たことのないような議会というものが、そのまま映像で出てきますので、議会も変わってくるだろうし、市民も意識が変わってくるだろうと期待しています。小宮山先生には、長年、何十年に渡って、弊社にご協力いただいて、私の顔を見る度に辞める辞めると言うものですから、それだけは勘弁してくれということで、今日までご就任いただいています。小宮山先生は、信州大学の学長もつとめられ、今は秀峰の校長をなされているということで、その世界の第一人者でありまして、私どもの様な小さな会社にはもったいない方ではありますが、私との交友関係で、本日までご指導いただいております。本日はぜひ、忌憚のないご意見とご高配をいただきたいと思っております。今日は本当にお忙しい中、ありがとうございます。どうぞよろしくお願い致します。

2. 会長あいさつ

小宮山：今日はどうぞよろしくお願い致します。先程お話に出ていましたが、このコロナ禍で、皆さん大変なご苦勞をなされていると思っております。本日は本当にお忙しい中、ありがとうございます。実際、何回か審議会が出来なかったわけですが、なんとか本日の開催に漕ぎ着けたというところではないでしょうか。どうぞよろしくお願い致します。佐藤社長からも話がありましたが、生中継の話も出ましたが、テレビ松本さんでは時代に即した取り組みを着実に進めております。こういったことで心強い限りではあります。とりわけ有線テレビの使命でもありますのは地域に密着した番組であります。臨場感あふれる番組を工夫するということで中継もあったかと思っておりますが、こういった番組が確実に着実に充実してきているという点で、嬉しく思っております。今地域の貴重な情報源として活用されているのだと思っております。これはスタッフ皆様の日頃のご努力によるものと、あらためて心から敬意を表します。現状がこういうことなんです、もとより現状に甘んずることなく、常に地域のニーズを捉えて、そこにチャレンジしていく姿勢が大事だと思いますし、心して取り組んでいかなくてはと思っております。そういった意味では、この番組審議会は良質な番組づくりのためのご提言アドバイスを頂戴する会であります。本日もどうぞ皆様にはよろしくお願い致します。

3・自己紹介

大池：山形村の大池剛と申します。よろしくお願いいたします。このような役は初めてでとても不安でいっぱいですが、これも私を成長させてもらえるということだと思いき喜んで引き受けさせていただきました。あと私は山形村で少年サッカークラブのコーチをやっておりまして、テレビ松本杯などをやっていただくということもあり、このような役を断る訳にはいかないなということで、受けました。微力ですが頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

上條：私も初めてのことで分からないこともありますけれど、少しでも皆さんの力になれるよう、頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

柄澤：松本山雅の柄澤でございます。本日は大月取締役の代理で出席させていただきました。いつもは地域の皆様、テレビ松本様にご支援とご声援をいただきまして誠にありがとうございます。私たちの活動も多く取り上げていただいていますテレビ松本様ですので、より一層皆さま方の思いを無にせず引き続き頑張っ参りますので、よろしくお願いいたします。

嵯峨：松本市の副市長の嵯峨宏一と申します。よろしくお願いいたします。また日頃市政にご協力いただきまして誠にありがとうございます。私は職員の時代から佐藤社長に大変お世話になっております。また自宅でも三十数年テレビ松本様にお世話になっておりますので、この話を喜んでお受けいたしました。どんな意見が言えるか自分でも自信がないですが、皆様のご意見を聞かせていただくことも楽しみにまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

菅谷：菅谷千恵と申します。JA松本ハイランド未来塾の卒業生ということで、お声がけいただき参加させていただくことになりました。よろしくお願いいたします。初めてのことで私でいいのかなと思いつながら、来たんですけど、子供が高校野球やっ参まして、毎年とても楽しみにテレビ松本の生放送を見ています。今年も試合ができる様にと願っています。農家代表ですので、松本の野菜をアピール出来たらと思っ参っています。よろしくお願いいたします。

藤澤：五千尺の藤澤と申します。昨日無事上高地開山祭を迎えることができました。思い出すと昨年は営業もままならず、5月いっぱいまで休業していたので、昨日は、感慨深いものがございました。またテレビ松本様には、第一回の山の日式典ではライブ中継を行っていただいていますので、山岳振興にもご貢献いただいておりますので、一生懸命やりたいと思います。皆様よろしくお願いいたします。

堀内：松本信用金庫に勤めています堀内由理と申します。私もこういった席は初めてですので、だいぶ緊張していますが、少しでも皆様のお役に立てればと思いますので、よろしくお願いいたします。

横山：松本ゾンタクラブから参りました横山和佳枝と申します。引き続きよろしくお願いいたします。

致します。このコロナ禍で私が勤めていた職場もオフィスが長野と統合になりまして今、長野に通ってしまっていて、今日も長野から往復約2時間かけて仕事2時間くらいで駆けつけて参りました。こんな状況が少しでも早く収まって安心できることを願うばかりです。よろしく願い致します。

塩原：塩尻市秘書広報課の塩原清彦と申します。本日は副市長の米窪の代理として出席させていただきました。よろしく願い致します。テレビ松本様には、市長の記者会見、先日は新体育館のオープニングにつきまして2日間放送していただきまして、おかげさまで市民に新体育館の方、周知・認知できまして、誠にありがとうございます。先週も土日に市民の皆様が新体育館の方に詰めかけていただける状況になりまして、感謝申し上げます。また個人的にも私も子供がおりまして、小学校中学校の合同音楽会でしたり、高校野球のマネージャーをやっている点で永久保存版ということで、DVDに保存させていただいています。本日はよろしく願い致します。

4. 課題番組①がんばる子どもたち♪ (2021年正月特別番組)

大池：ピントが合っていないところが気になりました。発表の最後の場面はちょっと目が疲れてしまう。あともう一点、演奏の発表の後の子どもたちの感想を聞く場面は、ほっとした、普通の小学生に戻ったような表情が撮れたら、もうちょっとよかったのかなあという気がしました。

上條：発表の場を失った子たちがいると思うが、見る方もやはり見られないもどかしさがありますが、子どもたちが頑張っている姿をみて、子どもたちの普段見られない部分が見られて良かったと思うし、ちょっと元気が出ました。上手に出来ていたの、何度も見ているうちにもうちょっと、構想をどういう風にして仕上がったのかも、見てみたいなと思いました。話し合いの過程も詳しく見てみたいなと思いました。

柄澤：個人的な話になりますが、子どもたちの義務教育課程がお陰様で全て終わりました、なかなか日頃教育現場の状況がこの年になるとあまり入ってこないの、小学校の生の教育現場でどういったことを一生懸命取り組んでいるのか知れて、自分が子供の頃と比べて、もしくは自分の子供の時と比べて、だいぶ取り組み自体が消化するものになっているのかなと強く感じる番組の内容だったと思います。やはり私たち山雅の活動もそうですが、子どもたちは地域の宝だと申し上げていますが、まさに教育というのはその礎になるものだと思っていますので、こういったところスポットを継続して当て続けてもらいたいなと思います。

嵯峨：子どもたちのこの演奏にかける想いが伝わって来て良かったと思います。またどれだけ練習を積んできたかということも手に取る様にわかりますので、とても元気を

もらいました。まさに少しでも明るい気持ちになってもらいたいという思いが映像にも表れていたかなと思います。ぜひ続編として、本番の風景も流していただけたらありがたいなと思いました。また、開智小の新聞づくりは、地域社会と関わろうとする、子どもたちの意欲が手に取る様に分かりましたし、またコロナ禍で発表の機会があまりなかった中で、取り組みの視点を変えて伝えようとした点が良かったと思います。木曾漆器づくりですが、地元の誇りを学びその精神を受け継いでいくという姿に感銘を受けました。3番組ともとても良かったなと思いました。

菅谷：金管バンドについてですが、私も子供が大きいのですが、昔金管やっていたことがあり、小規模な学校でしたがこうやってマーチングをやっているということを知らなかったですし、小学生でもこんなことできるんだなと感動したのと、指導する方の力もあるのかなと思います。それを学校の方しか知らないんじゃないのかなと思うんですね。保護者や近隣の方しか知らないことを、こうやってテレビを通して発信できたということはすごく良かったと思います。そして新聞作りは、これも子どもたちが自発的に地域のことを調べたりとかというのは勉強になることですし、大人たちも知らないことを子どもたちが知っていたりということは、大人たちが知らないです。こうやって発信することは素敵だなと思いました。木曾の漆器作りですが、これも伝統工芸で木曾ではよく知られていることかも知れないですが、こちらでは知らない。それを子どもたちが実際にやっているということを知れたので、良かったと思います。多分いろんな学校で特色のあることをやっていると思うので、それも取り上げてもらえたらなと思います。

藤澤：私の印象だとテレビ松本の真骨頂だと思える素晴らしい番組だったと思います。コロナ禍で制約がある小学生にフューチャーしたのはもちろんのこと、ご家族の方たちはお子さんをフューチャーしてもらえるのは、小宮山会長からも話がありましたがテレビ松本さんのケーブルテレビの使命として地域に密着したという、スポーツだけやっている子供ばかりではないので、学校活動にもフューチャーしたのは、素晴らしい番組だと思っております。特に開智の小学生が作った新聞は、僕も読みたいなと思わせていただけるくらい良かったと思います。

堀内：頑張っていて活動していても発表の場がないというのは、本当に悲しいことだと思いますし、なかなかやる気が出ない状況になってしまうと思いますが、こういった番組が一つの発表の場になると思いますし、頑張っている子供達を見ると、コロナ禍でもホッとすると言いますか、いいなと思いますので、まだまだ他にも頑張っている子供たちがたくさんいると思いますので、これからもどんどん取り上げてほしいなと思いました。

横山：まず清水小学校ですが、マーチングバンドって聞いていましたが実際に映像を見させていただいて、本当にレベルがすごいなと思いますのと、三年から六年の児童ですよね。なんか本当にすごいなというか、今の時代を表しているなと思いますし、

逆に発表の機会がなくて悲しいなというのがこちらにも伝わってくる、意気込みが今回こういう形で発表できるというので、かなり頑張っていたと思いますよね。終わった後のインタビューも固さが残っていて、もうちょっとリラックスして本音が聞けたらいいなと思いました。次の開智小は自分たちの足でそこまで行ってインタビューをして地域のことを調べるということは、松本の地元にもいいですし、再発見もできるんじゃないかと思います。これが松本に観光で来ていただく方に見てもらおうということは、非常に松本にとっても観光にとってもいい財産になるのではないかと思います。木曾の漆器作りですが、なかなかこの漆器体験教室というのは漆器館でもやっているんですが、県外の修学旅行生にはやっているんですけど、なかなか地元の方には身近すぎて行く機会がないんじゃないかと思います。小さい頃から伝統を自分たちで守るという気迫が感じられて、この1月2日に放送したというのは、皆さんに元気が、見ている我々も元気をもらったのではないか、もうちょっと自分も頑張らなくちゃいけないっていう新たにそういう気持ちになる番組だったんじゃないかと思います。本当にいい番組じゃないかと思います。

塩原：清水小学校ですが、今回本当にこういう活動をしているということを知ることができたことが良かったなと思います。普段ですと部長さんだけインタビューして終わりということがあると思いますが、今回は、数多くの子が自分の思いを述べる、そういった点が良かったのではと感じました。開智小学校さんはコロナ禍ですが、2年かけて作ったという苦勞が伝わって来て、これも本当に子供たちの活動を知ることができるいい番組だと感じました。木曾檜川小学校については、塩尻市は地域の人と活動するコミュニティスクール活動を行っていますが、なかなか子供がいる人は知ることが出来ますが、子供がいない方は、地域の小学校の活動は知らないということがありますので、番組を通じて地域に誇れるものを大人が感じるができるいい番組だなと感じました。

大池：開智小や檜川小ですが、他の学校でもこういうことをやっているんだよということがあると思います。ぜひ小学生に見せたい番組だと思います。沢山の小学生に見せることで、私も僕も今やっていることを工夫してやってみようよと活発になって行くのかなと大変いい番組だと思いました。

上條：今回は清水小学校や開智小学校、檜川小学校でしたが、他の小学校でも取り組んでいることもあると思います。小学校だけでなく中学校や高校にも、やはり子供さんが出ているとなると目がいく方も増えると思いますが、やはり子供がいる立場ですと興味がいき目がいきます。今回は知らなかったことをわかりやすく伝えてくださっていたと思いました。

小宮山：清水小の企画は、構想はどうやって練っていかれて実際はその通り言ったのでしょうか。

事務局：コロナ禍の中で、子供たちの笑顔あふれる地域に暮らしているお年寄りが不幸な

はずがないという小口市長の言葉が胸にあり、子供たちの笑顔とか表情や姿をお正月に見ていただくことによって、元気になっていただこうというのが企画の原点です。見ていただいた様に、凝った作りでもなく洒落っけもないですが、ただ子供たちの姿を見ていただこうと作ったものです。

(制作者) 発表の場がないということを知ったことと時期がちょうど12月ということで、出来たら全部映してあげたいと放送しました。6年生は3年生からずっと活動して来たので、最後の発表の場だったのに無くなってしまう。何か全部伝えたいと思い作りしました。

小宮山：確かにこういった番組がないと、ああいった活動を知る機会はないんですよね。ですからぜひ広げていっていただきたいのですが、どんどん増やす過程での課題ってありますか。

事務局：出来る限り園児・児童・生徒、普段の取り組み活動の姿をありのままに拾って行くのがケーブルテレビの使命ですので、それを放送することで子育て世代の皆さん、高齢者の皆さんに喜んでいただけるよう、これからもやっていきたいと思いません。

小宮山：インタビューの話が出ていましたが、今回はそれで良かったのかなと思います。前に、高校野球のインタビューをやったときに喋ることが全くのワンパターンで、紋切り型でありまして、今回も夢や感動をとということでしたが、10人のうち3人くらいが、そうじゃないことをいうのが、却っていいのかなと思いますが、実際にインタビューする上で、同じ言葉が続いたら途中で変えるとか、そういうことは出来ませんか。教育の問題と思いますが、話すことが決まっているんですよね。でも今回は良かったのかなと。

嵯峨：清水小の楽曲が私たちの年代には懐かしいんですが、曲の名前をキャプションづけるのは、難しいんですか。

事務局：そんなことはありません。

嵯峨：であれば、曲の名前を紹介していただけたら良かったかなと思います。

課題番組②信州の伝統野菜「松本市名川地区保平かぶ」

塩原：今回、このような活動を行っていることは知らなかったものですから、ケーブルテレビの存在意義を感じる番組だと思いました。内容については、保平かぶについて知らなかったので、初めて知ることが出来たということで、ありがたかったと思います。中でも商品の説明もあり、興味が湧く形だったと思います。ただ歴史の内容があったのでストーリーや経緯がもう少しあると良かったと思います。ぜひこのような番組を続けてほしいと思いました。

横山：うちは前から冷蔵庫にあり気に入っています。販売しているところは多くないと思

います。非常に難しいということを生産者の方が自分を奮い起こす様な感じで、出てくる言葉に重みを感じて、保平かぶをいただいたので改めて味わって美味しく感じました。かなり難しい栽培ということと、後継者も厳しいということがあり、長く作ってもらいたいと思います。皆さんもぜひ一度召し上がってみてください。

堀内：保平かぶというものを知らなくて、周りの人にも知らない人がいたので、地元においても伝統野菜を知らない人も多かったです。それを知れて良かったなと思いました。映像として残していくのは非常に良い企画だなと思います。生産者のインタビューがとても興味深かったですが、外でのインタビューのせいか、聞き取りにくかったので、字幕を強調するなどあったらもう少し良かったのかなと思いました。

藤澤：私は年間50日以上上高地と行き来するのですが、奈川地区は素通りしてしまう地区ではあったので、とうじソバ以外の特産品を知らなかったということを知れたということが、素晴らしい企画だったと思います。保平かぶの種をとっておいて、後継者不足ながらも保平かぶに誇りを持っている生産者さんたちを知ることができて良かったと思います。この番組を見て長野県の伝統野菜がどれくらいあるか検索したところ、長野県のホームページが一番上に出てきて、長野県の伝統野菜というページがあってリスト化されていました。せっかくなので、信州大学と長野県ケーブルテレビ協議会のリンクを貼られるとか、素晴らしい映像があるんですから、YouTubeなどでアーカイブというわけにもいかないだろうけど、そういう利用をして県とも協力体制を作れないかなと思いました。

菅谷：私も恥ずかしながら保平かぶを知らなかったもので、こういうのがあるんだというのを知りました。食べてみたいというのと、映像がすごい良かったので、奈川地区に行くことがあまりないけれど、コロナ禍ではあっても行ってみたいなと思いました。いろんなところで野菜を作って頑張っている人がいると思います。映像美とともにみんなが行ってみたい、食べてみたいという番組を作ってもらいたいです。

嵯峨：拝見してまさに記録映像ならではの価値ある貴重な映像かなと思いました。また調理法から食べ方まで紹介していますし、奈川の魅力というものを、合併して十数年経つ中でなかなか足を運んでいく機会が少ない中、より多くの松本市の方、県域の方にみてもらって奈川を訪ねてもらえたらありがたいし、奈川の方にとっては大変励みになったと思います。いい番組を作ってもらえたと思います。ぜひ伝統野菜に限らず、様々な伝統文化をご紹介いただけたらと思います。奈川というところは、松本藩ではなく、尾張藩だったということが特徴です。多分文化も少し違うところがあって、非常に奥深いところですし、住んでいる方も素朴で気さくな方が多いので、そんなところをまた見てもらえたらなと思います。

柄澤：第一印象は、映像がすごく綺麗だったなと。晴れ渡る山の中の畑で収穫している映像が綺麗で、そういう技術も上がっていると感じました。中で、記憶に残ったのは種の保存に対し、真摯に取り組んでいるのが、守り続けていることの難しさを実感

出来ました。質問もそういうところまで深掘りしているんだと感じました。あとは、せっかくの取り組みですのでアーカイブ化をうまくやっけていながら、デジタルメディアとミックスしていただければと思います。個人的に奥原さん、生産者さんを存じ上げていることもありまして、知っている方が取り上げられていると、親近感が湧くというのが放送の良さだと思いました。

上條：私も保平かぶについては知らなかったのですが、主婦として機会があれば取り入れていきたい。そこで伝統野菜が他にもどれくらいあるのだろうかという興味が湧きました。長野県内には、他にももっとたくさんあると思ったことと、伝統野菜だけでなく、伝統工芸など伝統的なものがどのくらいあるのか、興味が湧きました。

大池：私も保平かぶについてはよく知らなくて、初めて知ったところです。仕事が農業でするので、個人的に興味がとてもありました。一つ、堀内委員さんから話がありました、インタビューに字幕があるのもっと伝わりやすいのかなという印象でした。

小宮山：ほとんどが良い番組だったということでした。一部の委員さんから歴史的なところがどこかに挿入されていたら良かったのかなと思いますので、今後検討いただけたらと思います。ちょっと聞き取りにくかったですか？インタビューのところ。綺麗な景色でしたし、コバヤシチエコさんという方が、神様のような、カメラの前でも自然で、あんな風にはなれないね。やっぱり人柄が出るのでしょうか。楽しませていただきました。

横山：食べても、あの色なんですよね。映像のとおり綺麗で味も甘酢漬けで後を引くというか懐かしく体にもいんじゃないかと思っていただいています。私は松本駅のMIDORIの中に地域のものを売っているところがあって、そこしかみたこと無いんですよ。現地に行けばあるんでしょうけど、松本の他のところでは売っていないと思うんですよ。地下の県の特産品を売っているコーナーがあってそこに売っています。黒姫高原のヨーグルトとかおぼあちゃんが作ったお惣菜とか、結構観光客の方が買って行くので、梱包して送ってくださいとか、その一角にあるんですよ。本当にこの色ですし、ぜひ召し上がってほしいです。パックに入ってそんなにたくさんは売っていないですけどね。

課題番組③NEWS特集「塩尻市のGIGAスクール構想」

大池：私にも小学生と中学生の子供がいて、まさにこれからこういう時代が来ると親として感じるわけですが、とても個人的に興味を湧いた番組でした。まだ我々保護者もどうなるのか分からないので、興味を持ってみました。気になったのは、字幕スーパーで、インタビューを受けていた子供たちの言葉を字幕にした方が、聞き取れるけど、見ている人に伝わるのかなと思いました。

上條：塩尻市は周りの地域に比べパソコン関係は進んでいるなと思いますが、これからの

子供たちはすごく恵まれた環境で勉強が出来るんだなと感じました。そのうち子供から親が教わるようになるのかなと思いました。これから必需品となってくると思いますが、タブレットやパソコンに関わっていけば、出来るように自然となるのかなと思いました。

柄澤：私の家庭は下の子供が高校に上がり、初めてスマートフォン与えました。使えるようになることと使い方をしっかり理解し自分の身を守るのは、与えるだけでなく与えた後の管理を、覚悟を持って親として責任を持たないと、と実感を持っていますが、番組の中で、学校でこういうことに取り組んでいますという事実を紹介するだけでなく、その後保護者に向けて家庭での使い方が大事だというメッセージを込めた番組作りだったということが非常にいい番組だったなと感じています。

嵯峨：この地域では塩尻市さんがデジタル化は非常に先行してしまっていて、松本市も遅れないように何とかついていっています。私は予算をつける側ですので、松本市もGIGAスクールということで、大変な金額の予算をつけています。一人一台のパソコンとあったことですが、具体的にどんな授業が行われているのか、なかなか伝わってこない面があります。今回、初めて使い方的一端を紹介していただいて、理解を深めることができました。多分、保護者の皆さんもそうだと思いますが、これから本番の授業の様子も映してもらって、どう授業に展開しているのかテレビとして伝えてもらえたらありがたいなと感じました。

菅谷：私自身はアナログ人間で、子供に教わりながらやっている感じです。子供たちは本当に詳しくて、どんどん進化してきてください、きつとうちの子供の頃よりさらに進化していることが分かりました。それでも子供は小さいから分からないだろうと思いがちですが、子供は頭が柔らかくどんどんついていって、メリットもあってデメリットもあるのでしょうか、時代がこういう時代なので、すごく大事なことだと思いました。

藤澤：このGIGAスクール構想、塩尻市さんは非常に素晴らしいことをされているなと思いました。私が番組審議会に参加させていただくようになってから、一つだけ番組を見る前に自分なりに心がけていることは、この番組はどの年代層の方が見るのかなということ意識しています。というのも、今自分は3世代一緒に、父と母も含めて暮らしているんですが、次男も一緒に高校生ですが、やはりIT関連や横文字の話題がある時は、孫の次男すら70代の私の両親に説明することを省いてしまうくらい、両親にとってはGIGAと聞いただけで、は？というところから始まってしまいます。これは制作サイドの方々も大変ご苦労されていると思うんですが、これからますますIT関連の用語とかが増えていくと思いますが、視聴者層と合致させて噛み砕く努力をしているのか、どういう風になっているのか見させていただきました。塩尻市さんの素晴らしい取り組みですし、今、行政の方々も横文字が多くなってきている中で、どのようにやっているのか気になった次第であります。

堀内：GIGA スクール構想と聞いても、あまりピンと来なかったんですが、番組としてはタブレットの使い方やこんなことが出来るんだと、他県の入試が見れたり、ああすごいなと単純に分かりやすくこういうことなんだと感じました。

横山：私も横文字が聞き慣れない、耳に入ってこない年代に入ってきていますが、子供たちというのは、すごく受け入れているんなものに興味を持って小さいうちから慣れていくというのは、非常にこういうツールを使って、時間を最小限に出来るというのは、今後教育の場で、デメリットもあると思いますし、いいものは効率よく調べて、他のものとはという住み分けも大事じゃないかなと思って番組を見させていただきました。

塩原：塩尻市の職員ということで、先ほどからお褒めの言葉をいただいている、本当にありがたいなと感じています。今回の映像につきましても、市民の皆さんに周知するという意味で大変ありがたい映像であったと感じています。塩尻市としても、今年度教育振興計画の中にGIGA スクールの実現というものを加えていまして、機器を入れて授業で活用しますということは本来であれば手段であって、目的で終わりというイメージではいけないと思ひまして、学校で実際の取り組みの状況を市民の皆さんに映像で流していただければ、よりそういった物への周知が徹底されるのかなと思います。ありがとうございます。

小宮山：教育の形態がこんな風になってきていると。その辺をご紹介いただいていると思います。それぞれが、心構えや理解が深められたという意味で、良かったのではないかと思います。みなさんからお話があり私も感じたことは、例えば今朝の地方紙にこのGIGA スクール構想のことが出ていて、課題がいくつか。実際にどうやっていいか分からない。それで今信州大学の先生方や専門家の方が指導していらっしゃる。お話に出ているように、塩尻市さんは先を見据えていて、あくまでも手段で、機器を入れたからどうこうということではないと取り組んでいて、心強いですが、例えばお話を聞いていて、端末でやっていく中で、対話的主体的な授業が、より充実するとおっしゃるんですが、隣に居るなら話せばいいじゃない。何もこれを・・・というのは私の単純な疑問です。課題がありますよね。その辺をどのようにクリアしていくのかと。それから、見ている方が理解しているかですが、学校が一人ずつ貸与するわけですよね。5年経つと全部更新しなきゃいけない。そういう点も、自治体がやって下さるのでいいんですが、伝わっては来ないですよね。整備した云々というだけで。家庭持っていくのをどうするか、そこで壊したら？弁償するのか・・・やはりいろんな課題があると思うので、これからですよね。ただ、こういう風になっていくということを我々は知っていなくてははいけません。そういったことを投げかけていただいた点ですごくいい番組だったのではないのでしょうか。ぜひ塩尻市さんの方から発信していただくということで。まだ雲を掴むような話だと思いますが、国としても急遽導入したんですよね？2年前倒しで。まだ整備さ

れていない。ぜひまたモデルになるような授業形態を流していただきたらと思います。私も古い人間ですから、例えば英語の辞書をタブレットでやりますとなると、私は紙の辞書を前回見たところに印がついていただきたか、ついでに前後を見るんですが、若い先生なんかはいやあもう電子辞書の方がいいですよって、もうついていけないんですが。でも時代はそんなところに来ていますね。

5. その他

柄澤：スポーツの話題を振られましたので、前回の番組審議会の課題番組でドミニカの密着取材の番組があったかと思います。非常に佐藤社長にご尽力いただいてドミニカとの架け橋の役をやっていただいて、また今回こうやって留学生の受け入れということもありまして、一つの壮大なスケールのストーリーになっていると思います。翻って私どものサッカーもストーリー性というものが、ファンサポーター含めて心を打つということがありますので、ぜひそういったスポーツも、先程の金管バンドのような文化活動もそうですけど、ストーリー性を持った番組作りは一般の方にも魅力的だと考えますので、今後も進めていただければと思います。

嵯峨：市政については、十分放送していただいてありがとうございます。関係ない話ですが、私はあまりテレビを見ないですが、好きなのが、NHKさんの72時間という定点観測の番組です。いろんな方の生き様を知れて楽しみに毎回見っていますが、もし可能ならテレビ松本でも松本のどこかで定点観測の番組をやっていただきたらと個人的には思っています。

塩原：塩尻市のイベント等数多く生中継していただいて改めて感謝申し上げます。引き続き、そういった部分生中継していただきたらというお願いと、先ほどありましたGIGAスクールなどネット関係については、適切に使いこなしていくことが子供達にも必要です。こういったことは塩尻市だけでどうこうということではないと思いますので、ぜひ、テレビ松本さんの方で、子供達に啓発できるような映像を作ってもらえれば、松本市や山形村、朝日村、筑北村さんに一括で流せるものができるかなと感じました。

6. 終わりに

佐藤：大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。もっと厳しい意見を出していただければと思っていますので、次回にはもっと厳しく意見をいただいていい番組を作っていきたいと思っていますし、またご指摘の点については担当のものとは十分に相談し、改善していきたいと思っています。これからも厳しいご意見とご指導のほど、よろしく願いいたします。今日はありがとうございました。